

## 文化庁「日本博」企画委員会（第7回）議事要旨

### 【日時】

令和2年3月27日（金）10:00～12:00

### 【場所】

文化庁 特別会議室（旧庁舎2階）

### 【委員出席者】

織田紘二委員，河村潤子委員，河野俊嗣委員（代理），コシノジュンコ委員，小松大秀委員，小山薫堂委員，島谷弘幸委員，高階秀爾委員，根立研介委員

### 【文化庁】

中岡次長，豊城鑑査官，坪田参事官，山田新文化芸術創造活動推進室長，山口暮らしの文化アートグループリーダー

事務局から資料に基づき進捗状況の説明。

その後，各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下の通り。

- 日本博を今後も継続して行うことは重要である。
- 多言語で外国人に分かりやすくすることは、日本の子供にとっても大人にとっても分かりやすいということに繋がる。
- 日本文化の多様性をアピールすることはとても大事である。
- 多文化共生は特に重要である。日本は多文化社会であることを日本人にも是非知ってもらいたい。もちろん外国人の方にも知ってもらいたい。
- 大きな展覧会をするだけでなく、子供の文化意識を高める取組があってもいいと思う。外国では多くの子供たちが美術館・博物館を訪れている。日本でもその様なところに自由に行くことが重要である。美術館・博物館に遊びに行きたいと思うようなものにすることが日本博として重要である。
- 広報について、スタートが遅かった点を差し引いても SNS があまりにも良くない。やり方を変えるか、担当を変えるかのどちらかをしたほうが良い。足元を見すぎていて、遠くを見ていない。メディアは見ているが、誰が見るのかを分かっていない。なんとなく話題にしようとかメジャーなイベントにしようというのは分かるが、すごく大事なことが抜けている。

- 子供たちにしっかりと伝えることが重要である。それを伝えるためには学校の先生たちに伝えることがまずは必要ではないか。学校の先生経由で子供たちに伝えて、「日本博に行こう」と言わせるような広報が重要である。
  - 外国の方に対して多言語で説明することは重要だと思う。WEBであれば全世界へ発信できる。
  - 日本への旅行は考えていないけど、なんとなく日本に関心がある人もいる。普段海外に住んでいる人に「こういう日本がありますよ」という宣伝が大切。現地で特に日本に来ようと思っていない人にどう届くか、色々工夫することが必要である。
  - 日本博のコンテンツが非常に充実しているのはいいが、何が売りが分からない。絞った形で、各々のフィールドでまず発信したほうが良い。
  - フォロワーがたくさんいる人にSNSで広報してもらうのが大事。内部の体制を整えればいいという話ではないで、ターゲットを絞って配信することが大事である。
  - 国内で行っている事業に限らず、海外で行っている日本文化の展示について、日本人自身が海外の国でやっているというのを知ることでも大事で、そのような情報の発信も必要と考える。
- 
- 新型コロナウイルスの感染が拡大している状況の中で、これだけたくさんの方のアイデアが集まっているということは日本の凄さ。
  - 令和の時代、新しい時代になって日本を新しく見直すには今がチャンスである。
  - もっと安定した、地についた文化事業を今後も継続してやるべき。新型コロナウイルスの関係でオリンピック・パラリンピック延期になったなどあるが、冷静に淡々とやっていくのが日本らしい。
  - オープニング・セレモニーは中止となったが、収録した内容を文化として発信するのを大事にしたい。皆さまに元気ややすらぎや祈りを届けるものなので時期を見て文化が社会にこういう貢献ができるということを伝えたい。
  - 今回の新型コロナウイルスの関係でいえば、ピンチをチャンスにしていきたい。オペラやオーケストラでは動画配信を行っている。普段見たいけど、見たことのない人が見るきっかけになる。見ることができる回数が非常に増える。

(事務局より)

- 日本博のオープニング・セレモニーを実施する予定であったが、中止とした。演者の方々にはお集まりいただき、内容の収録をした。タイミングをみて後日何らかの形で発信をしたいと考えている。
- レガシーが重要である。それについて、我々も心して取り組んでいかなければならないと思っている。
- 興味関心の向かっている方向が人によって違うので、関心が高いところに適切な事業を紹介するということが重要である。
- 子供をターゲットとした広報も考えていきたい。
- 自分の地域文化を伝えようという取組に熱心に取り組んでいる学校があるので、是非そうした所にもなんらかの形でつながりたい。そして、メッセージを子供たちが世界に向けて発信していけるようにしたい。学校の先生方にあまご負担をかけない形で進めていきたい。
- コンテンツに磨きをかけるなどこのような状況を前向きに考えて、次のステージへ向かっていきたい。
- オリンピック・パラリンピックは延期となってしまったが、日本博は日本の元気を取り戻す機会をつくれると信じている。オリンピック・パラリンピックはスポーツの人が主役になる1年だが、文化を演じる人たちが主役になる1年になるようにしていけたらと思う。